# ～ みんなで考えよう
# 次世代につなぐ『公共施設』について ～
## ＝ 浦添市公共施設マネジメント　市民フォーラム開催報告（要旨）　＝

## 1　開催概要

（1）開催日時：平成２８年５月３１日（火）　19：00 ～ 21：00

（2）　場所：浦添市てだこホール（小ホール）

（3）　内容

① 19:00～19:05　主催者あいさつ

② 19:05～19:45　基調講演

「施設マネジメントの進め方　～自治体の今後を公共施設と都　市基盤から考える～」

③ 19:45～20:10　報告「浦添市の公共施設の現状と課題」

④ 20:10～20:20　休憩

⑤ 20:20～21:00　パネルディスカッション

（4）参加者：86 名

## 2　基調講演（要旨）

**「施設マネジメントの進め方　～自治体の今後を公共施設と都　市基盤から考える～」**

**講演者：堤 洋樹氏（前橋工科大学工学部准教授）**

**【公共施設マネジメントとは】**

・建物を企画、設計、施工から解体までのライフサイクルで見た場合、設計、施工よりも運用の時間が最も長いく、設計、施行よりも運用を見直すことが大切である。

・費用面で見ても、設計費・建設費の初期投資よりも、管理費・保全費・修繕費・光熱水費などの運用費の方に費用がかかる。この二つのことから、施設運用・利用時のマネジメントが不可欠である。

・財務、品質、供給のバランスをとることが施設マネジメントだと考えている。財政、建物の品質と施設の量、どちらか一方をほしいと言うだけでなく、三つのバランスをどうとるかが大事。

【施設管理は誰のためなのか？】

・施設管理は、誰のためなのか？

「公共施設のため」「自治体のため」、どちらのためでもありません。私は、所有者（住民）のためだと思っています。自治体は、自分の施設を管理していると思いがちだが、それは違う。管理者は、住民の代わりに管理しているんです。住民は、自分の施設なので、自治体に任しているだけでなく、自分の施設なのでもっと興味を持って、施設の状況や今後どうしていけばいいかについて考える必要がある。自治体と住民が全員で協力（品質だけでなく供給・財務の提案）していく必要がある。ほしいほしいだけでは、実現できない。

【保全計画の必要性】

・浦添市の公共施設の更新に必要費用は 40 年間で 913 億円、1 年あたり 22.8 億円と予想されている。これは、公共施設に係る投資的経費の直近 5 年平均 20.67 億円の 1.1 倍かかり、現状では、財源が足りないといえる。

・そのためには、施設の供給量を減らす（供給）、長寿命化を実現する（品質）、ただ長寿命化するのでなくピークを減らして平準化につなげる費用の確保（財務）の３つの視点をもった保全計画が必要となってくる。

・沖縄は、1.1 倍で全国の自治体に比べて財政的に恵まれており、また人口が増えている面でも恵まれている。公共の施設も新しいものが多くてとても恵まれていますが、今のうちから動くことが必要です。今ならできます。迫ってきてからでは遅い。

【施設整備の手順】

・施設整備の段階を５つのフェーズに分け、段階的に順を追って考え直していくことが必要。フェーズ１では、人口推移や財政的な分析から施設整備全体の方向性を検討することが中心となります。フェーズ２では、個々の公共施設の実態を把握し、整備が必要だと考えられる公共施設の抽出を行うことが目的となります。ここまでの段階で整理した基本的な方向性や分析した施設の結果を取りまとめたものが公共施設等総合管理計画となります。

・フェーズ３では、整備が必要として抽出された公共施設だけではなく、対象施設がある地域に求められている機能や施設量を整理し、具体的なマネジメント計画を策定することが目的となります。フェーズ４では、フェーズ３までの情報を活用し、対象地域における公共施設の具体的な整備案の作成が目的となります。フェーズ５では、施設整備の最終段階として民間企業や隣接する地方公共団体との共同利用など、地域全体での行政サービスの充実を図ることが目的となります。ここまで説明した施設整備の手順については、倉敷市のホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。

・フェーズ２のレベルでも整備の方向性は決められる。少なくとも整備の方向性は絞ることができる。管理者側の視点と利用者側の視点から評価して、継続保全、更新検討、利用検討、用途廃止の４つに分類し、整備計画に使える施設評価が必要となってくる。ここで用途廃止となったからと言って決定ではなく、用途廃止の必要が本当にあるのか、そのあとに検討する。方向性がある程度決まれば、データだけでなく、実際に現場に行って、正確に現場を分析把握する。地域全体で状況を確認することが大切です。

【市民との共同作業が必要】

・会津若松市で行った「小学校の新しい使い方について」でのワークショップの事例を紹介すると、⇒まず、小学生、教員、保護者、自治会、約６０名を小学生チーム、教員チームと分けた。そうすることで、小さな意見までいろんな意見を聞くことができる。混ざったチームだと、大きい声の意見だけしか意見として出てこない。

・行政と市民は、対立するものではない。行政の人も、一人の市民なので同じ立場で考えるべきである。ワークショップなどを通して市民だけでなく行政が公共施設整備の在り方を再認識する機会を作ることが大事。ワークショップは、ぜひ、やっていただきたい。また、若い者（小学生など）の意見はぜひ聞いてほしい。なぜかというと、今後一番使うことになるからである。

【最後に】

・公共施設等総合管理計画の策定後からが本番である。何のために計画を策定する（した）のか。それは、具体的かつ効果的な整備まで進むためであるが、基本的には「正解」はない。

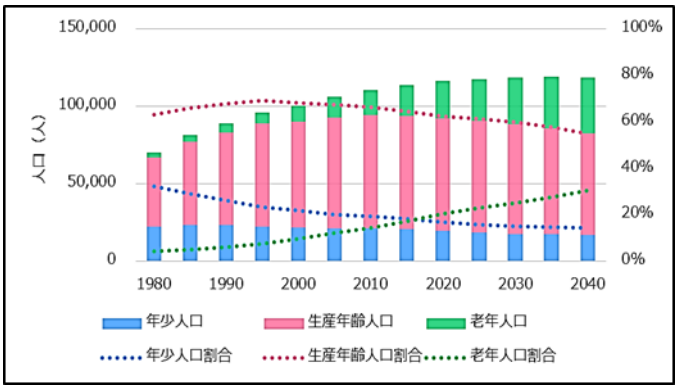
・根拠を基にした「自身が持てる」整備計画を自治体職員や住民が自ら策定し、その効果を比較・検討することが求められている。

## 3　報告「浦添市の公共施設の現状と課題」（要旨）

浦添市総務部財産管理課

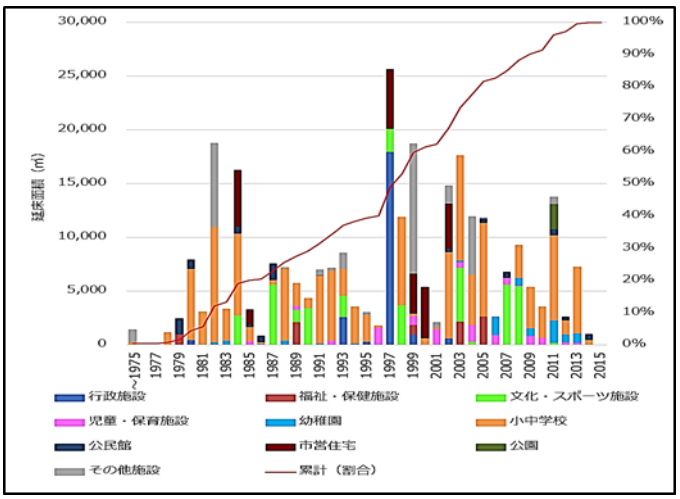
【人口の動向と構造の変化】

・全国的に人口減少が続く中、浦添市の総人口は 2035 年頃まで増加傾向にあります。一方で、年少人口や生産年齢人口の減少に対して、老年人口は増加するなど、人口構成の変化が予測されており、将来の公共サービス需要を見据えた検討が必要となります。




【施設保有量】

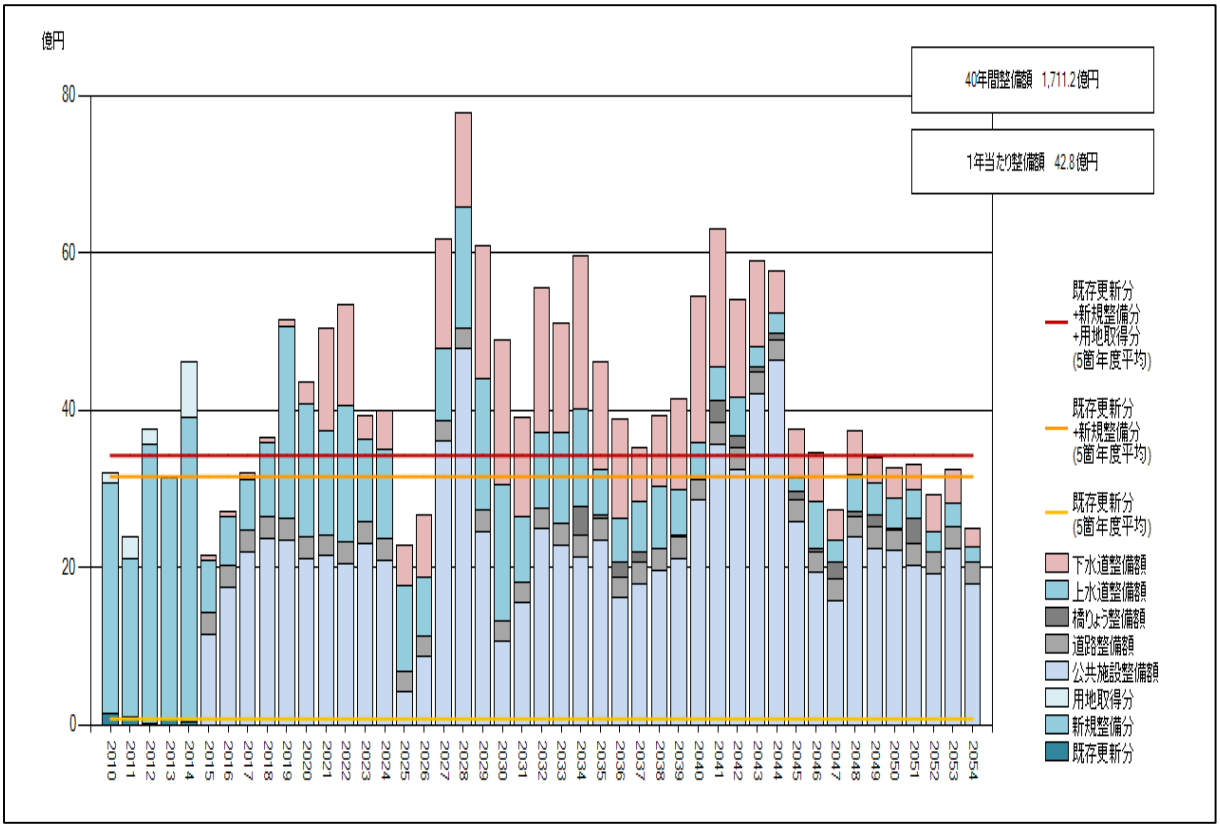
・浦添市の保有する公共施設を建築年度別に見ると、1997 年は市庁舎建設により延床面積が大きくなっていますが、全体で見ると目立ったピークは見られません。




【施設整備にかかる将来財政負担】

・浦添市が所有する公共施設やインフラ資産をこのまま保有するために必要な更新費用は 40 年間で総額約 1,711．2 億円、１年

当たり約 42．8 億円と試算されています。これは、投資的経費の直近 5 年平均 34．2 億円の約 1.2 倍、2027 年～2029 年には施設整備のピークを迎えることから、直近 5 年平均の約 2 倍の費用が必要になるものと試算されています。




**【公共施設マネジメントの基本方針】**

・人口減少や社会構造の変化の中で、持続可能な自治体経営を行うためには、限られた「財務（つまり財源）」の中で、施設単位ではなく、地域全体の「品質（質の高い行政サービスの提供）」と「供給（施設の保有量」のバランスを見極めながら、最適な公共施設のマネジメント戦略を推進することが重要と考えています。

そのためには、公共施設マネジメントを段階的に推進・実施するための準備や組織体制の構築などの「入口戦略」が必要となります。「入口戦略」として次の３点を掲げてまいりたいと考えています。まず、一つ目は「全庁的な取組体制と情報共有」、二つ目が「PPP・PFI 活用の推進」、つまり民間の活力

**入口戦略**

**公共施設マネジメントを段階的に推進・実施するための「入口戦略」**

1 全庁的な取組体制と情報共有

2 PPP・PFI活用の推進

3 広域連携の推進

**出口戦略**

**公共施設マネジメントを成果に結びつけるための「出口戦略」**

1 公共施設の「供給」目標

2 長寿命化と安全確保・耐震化

3 定期点検・診断の実施

4 財政負担の適正化

を施設の整備や管理に導入するなど、民間事業者の資金やノウハウを活用して行こうということ。そして三つ目が、国・県・近隣市町村との施設の共同利用などの「広域連携」を推進して行こうというものです。

また、公共施設マネジメントを成果に結びつけるためには、入口戦略と同様に、具体的な方策や行動を示す「出口戦略」が必要になります。一つ目の「公共施設の供給目標」でございますが、全国的に公共施設の保有量の削減を目標とする自治体が多い中、本市においては、将来人口が 2035 頃まで増加傾向にあることを踏まえ、人口１人当たりの保有量（延床面積）を増やさないことを目標にしたいと考えております。 出口戦略の二つ目として「長寿命化と安全確保・耐震化」、三つ目が「定期点検・診断の実施」、そして四つ目に「財政負担の適正化」を定めています。

## ４　パネルディスカッション（要旨）

【コーディネータ】池澤　龍三　氏(一般財団法人　建築保全センター公共建築マネジメント研究センター　主任研究員)

【パネリスト】
・松本　哲治（浦添市長）
・堤　洋樹　氏（前橋工科大学工学部 准教授）
・松村 俊英　氏（ジャパンシステム株式会社）

池澤氏）今日、難しい言葉がたくさん飛び交ったが公共施設マネジメントとは、難しいことではない。通常の家庭の話とあまり変わらず、浦添市という共有資産を祖母父、父母、子供、孫の代までどうつなげていくかという話である。

公共施設マネジメントの本来の目的は、みなさん、何だと考えていますか。

堤氏）　まずワークショップで、初めにほしいものではなく、したいことをまず聞く。図書館がほしい、図書館で何をしたいんですか？　本が読みたいから、本は図書館じゃなくても本を準備すれば読める。図書館がほしいってことでは、ないのかもしれないとなってくる。本を読みたいというのもあいまいになってくる。本読んでなにがしたい？たぶん本読んで知識を得たいとかだと思う。でも、パソコン使えば知識でもなんでも、得られますよね？　となってきます。

今までの公共施設の概念がいろいろかわってきていろんな展開できる、今まで施設に

使っていたお金を福祉やほかの事にもっと使えるのかもしれないので地域協力し合っていきましょう。

松村氏）財政的な制約がなければ、私もあれがほしい、あれがしたいというが、財政の立場から言うと、タダ飯はないという事実。人口も増えていて、財政的にもほかの本土と比べるといい、その良さは、どこからきているかというと現役の私たちの贅沢は、将来の世代の税金の前払いを使っているということ。

将来少子化によりどんどん将来世代が少なくなっていきどんどん苦しくなってくる。なので、今の私たちが我慢することが今は、大事だとおもいます。

市長）市長ですから、市民の立場から見てどう考えているのか考えるんですけど、まちづくりと一緒だと思うのです。例えて言えば、巨大な家族で住んでいる巨大な一軒家だと思うんです。一軒家といっても、普通の一軒家と違うのは、解体して作り直すことができない永遠のリフォームを続けていくしかない巨大な家族で住んでいる巨大な家なのです。そこで、玄関の取っ手がガタガタしてきたとか、トイレの流れが悪いだとか、いろんな人がいろんな要望を言ってくるんです。そのなかで大切なのは、「わった～や～にんじゅう」（僕ら家族）、同じ家族でこの家をどうリフォームしていくか考えないといけない。同じ家族で一つの家計だからどこが一番問題でどこから直していくのか全体で話し合っていかないといけない。

高齢化が進んで、今後、もしかしたら五世帯家族もあるかもしれないから高齢者の住みやすい視点も大事だし、だからと言って子供たちに雑魚寝しろというわけにもいかない。その辺のバランスをとって、いかなければならない。だから、市民という大家族のメンバーで話し合っていかなければならない。

池澤氏）公共施設マネジメントの目的を阻害しているものは？その打開策は？

堤氏）　浦添市は、恵まれたいい条件はそろっています。ただ 2035 年まで人口は増える。建物は、一回立てると 50～100 年くらい使うわけだから、今足りないからと言ってすぐ作ってしまうと 30 年たって、お子さんの世代のときに余ってしまって困ってしまう。

問題は、長期的な視点をみて、今どうしないといけないかきちんと考えてあげないと将来お子さんたちに負担をかけることになる。それに縮小するとか減らすとかの話ばかりでなく、外部からでも来てくれるような機能をイベントなど楽しいことセットで施設整備をやっていかない限りなかなかうまくいかない。楽しいことをできてない自治体が多い、そこが問題。

松村氏）大体潤っている、ある自治体では、潤いすぎてブロックごとに体育館を作ったりしてあげくのはてには、首長が金の茶釜でも買うかといって本当に買って議会ともめたという話も聞きました。公共施設や体育館が高価な金の茶釜のようなものにならないでほし

い。誰も予想しない想定外のことがいつ起きていつ基金を取り崩していかないといけなくなるかわからないので、現状いい位置にいるうちにどんな戦略をとるか家族が本音で話し会いを繰り返して市長が決断をするということが大事だと思います。

市長）　みんながわかるような説明をしなくてはいけないと思います。浦添という大家族のとなりには、宜野湾、那覇という巨大な家族があり、あそこにはあるのに、自分たちの家にはなんでないのと、この話には限界があってきりがないと思う。

これからは、隣のまちと話し会って共有していこう。それが、駐車場なのかトイレなのかはわからないが、市町村間で話し合っていく必要があると思う。

堤氏）　この話は、とても大事なことで、那覇市まで車で30分ほどで行けてしまう、一番施設が多い地域がこんなにも近くにある。買い物でも隣町まで行くこともよくあるから同じように施設を共有して使うことができれば浦添市にも同じ施設を作る必要はないと思います。そうすれば、みなさんが欲しい他市町村にはない施設を作ることができるかもしれない。

市長）　私たちの地域は、宜野湾市や那覇市が隣にあって人口も集中しているので、どっかの公共施設に片道30分とか本土の方だと普通だと思うんですね。だから、私たちが施設使用に隣の地域に行くことが当たり前にならないといけないんですね。でも、どうして隣にあるのにこっちには無いんだ、となってしまうんです。

民間と協力しながら民間の活力・アイディアも取り入れながらそれを加えていく、そのためには、市民と一緒に私たちも、次の段階に行かなければならない。お互いに賢いやり方をするほうが市民から評価されていくという仕組みを、どう作っていくか松村さんに教えてほしいです。

松村氏）金の話をちゃんとすることですね。お金のかかる余計な施設は、他市町村に持ってもらった方がいい。交通費とか利用費などかかるが、それならバウチャーを渡した方がいい、そろばんをはじけば、その方が断然安い。

施設って１回立てると何十年も持ちっぱなしなんですね。どこでも持てる物は、持ってもらって、自分たちは、誰もが持てないところに一点集中して投資すると、日本各地だけでなく、世界からも人がもっと来るようになる。

堤氏）　何をしたいかっていうのを実現できるまちにできたらいいかなと思います。例えば、松村さんも言っていましたが、いくら立地が悪くても、そこにしか施設がなければ来るんです。そういうものを作っていきましょう。市民全員がほしいとは、言わないかもしれないが、やりたいって人がいれば、なんでもかんでも市が準備しないといけないわけではない。体育館とか図書館も使っている人は、ごくわずかだったりもします。

先ほどの話に戻りますが、使う方からしたら、隣の市のものだから使わないとはなら

ないですよね？　たぶん、近いほうを使うなら隣の市にあってもいいと思います。共有利用などを一番気にしているのは、自治体の人だったりするんです。使っている人は、気にしてないと思います。

松村氏）どうせやるなら一点突破。価値というのは、差でありますから、他の市町村と同じことをやっていては、人も集まらないし何も変わらない。たまたま経済発展した隣国からもたくさん人が来ますし、アジアの頭脳を集められるような施設を作れないのかなと思います。大学とかがその典型ですが。

モノレールが伸びていくと、沖縄初のモノレール（鉄道）を生かしたコンパクトな街づくりをしていけるんじゃないかと思っています。そうすると、道路だったり自動車だったり、インフラに対する莫大な投資を節約できるんじゃないかと思いますね。

市長）　モノレールで那覇と浦添が一本の道でつながるわけですよね。那覇市で必要、浦添で必要、ではなくて、那覇と浦添で１つというような関係を気づくことが大切なんです。市が今持っている施設は、市が今後も持ち続けなければならないのか、検討しなければならないと思うんですね。

市役所だって市が管理しないといけないのかと思うんですね。民間のノウハウとかもうまく活かせるんじゃないかと思うんです。思いっきり失敗を恐れないでいろんなことを試行錯誤していく。そして、行政がいろいろ試行錯誤していく事を見つめていく市民を作っていくことも努力していかないといけないなと思います。

池澤氏）増築という話がありました。これまでは、増築だったのを、これからは、減築していこう。インフラでいうと、なにもここから市道ここから県道だから走らないってわけではない。そうしたなかで、ネガティブな発想で街づくりをしてもいい街はつくれない。最終的に目の輝く浦添市民が残るようにポジティブな評価を家族全体でたくさん本音で話し合って、言いたいこと言い合ってポジティブに生きていきくっていうのを大事にしてほしい。

いずれにしても、今回のテーマである「次世代につなぐ」という意味は、次世代の負担を減らすってだけでなく、次世代がいろんな選択をできるような社会っていうのを私たちが作ってあげないと次世代も活力がでないでしょうから、いろんな手法を使って次世代が選択できる余地を今後作っていこうと思います。

## 5　市民フォーラムアンケートの主な意見など（回収件数：61 件）

・公共施設を負の財産にしないために、本当に考え行動していかないと
・次世代が輝くまちづくりを目指せるために考えていけたら良い
・全国的に見て浦添市は良い方であり、慌てずじっくりと取り組んでほしいと思う
・意見をワークショップで募るのは良いと思う
・計画的な維持更新をファシリティマネジメントの推進を望みます
・浦添市を巨大なファミリーだという市長の例え話はよく理解できた
・モノレール延伸で市内の交通網の整理が必要ではないか
・施設利用がしやすいように、交通機関との連携をお願いしたい。
・参加者が少なくて、せっかくのフォーラムがもったいないと思った
・市町村連携について、他自治体の具体例を示してもらえたら分かりやすいと感じた
・どのような施設が浦添市と他市で共有できるかを示してくれたら、もっと深くこの話題について考えるきっかけづくりになると感じた
・無くても困らない施設や事業を民間に任せた方がよい
・これだけの施設をこれからも維持できるだけの財源を浦添市は持っているのか、そこまで知りたかった
・本当に必要な施設だけにして、学校などの整備に充ててほしい
・一部の市民の利用でしかない施設は基本有料化で、収支が合うなら民間経営化へ
・マネジメントの奥深い議論をもう少し展開してほしかった
・全体的に将来のことを、みんなが考えていく必要がある
・行政はメリット・デメリットをしっかり説明し、市民に理解させる努力が求められる